

シラバス情報

授業方法	講義・実験・実習		
系 列	自動車整備		
科 目 名	エンジン整備		
必修・選択	必修科目・選択科目		
対象学科	二級自動車整備科二輪自動車整備士コース		
年次学期・曜日・時限	2年前期	木曜日	5・6時限
時 限 数	26時限		
担当教員名	松原 吉彦		
実務経験	有・無		
	国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、二輪自動車エンジンの整備知識・方法についての講義を実施する		
授業の目的	二輪自動車エンジンを整備する上での、知識・技術・注意点及びその方法について講義する		
テキスト	①三級二輪自動車（日本整備振興会連合会 発行） ②自動車の故障と探求（全国自動車大学校・整備専門学校協会 編） ③自動車定期点検整備の手引き		
授 業 計 画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト 範囲
第1回	・導入 ・オーバーホールとは	エンジンオーバーホールする上での、全体的な流れ、注意点について講義	①P56～57 P139～146 ③P200～212
第2回	・オーバーホールする前に エンジンの故障状況の確認方法	エンジンオーバーホールを始める前に把握すべき点について講義	①P56～57 P139～146 ③P200～212
第3回	・圧縮圧力の測定 ・シリンダ・ヘッド・カバー ・バルブクリアランス	圧縮圧力の測定方法、バルブクリアランスの測定方法等について講義	②P10～11
第4回	・カムシャフト ・シリンダヘッド	バルブシムの選択方法、オイルクリアランスの測定方法等を講義	①P56～57 P139～146 ③P200～212
第5回	・シリンダヘッド ・シリンダ	シリンダヘッドの歪点検、バルブシートあたり幅の点検方法等について講義	①P56～57 P139～146 ③P200～212
第6回	・ピストン ・ピストンピン	ピストンやピストンリングの分解、点検、組み付け方法等について講義	①P56～57 P139～146 ③P200～212
	中間試験	第6回までの授業内容に関する筆記試験	
第7回	・ピストンリング・コンロッド ・コンロッドベアリング ・クランクシャフト	ピストンリング、コンロッド、コンロッドベアリング、の点検方法等について講義	①P56～57 P139～146 ③P200～212
第8回	・クランクケース ・ジャーナルベアリング	ベアリングの選択、クランクシャフト、クランクケースの点検方法等について講義	①P56～57 P139～146 ③P200～212

第 9 回	・潤滑装置	潤滑装置の点検方法等について講義	①P56～57 P139～146 ③P200～212
第 10 回	・冷却装置	冷却水、冷却装置の点検方法等について講義	①P56～57 P139～146 ③P200～212
第 11 回	・燃料装置	キャブレータ同調調整 アイドル回転速度の調整等について講義	①P56～57 P139～146 ③P200～212
第 12 回	・燃料装置	キャブレータ同調調整 アイドル回転速度の調整等について講義	①P56～57 P139～146 ③P200～212
	期末試験	第1回～第12回までの授業内容に関する筆記試験	
到達目標	エンジンオーバーホール等、二輪自動車エンジン整備の知識・技術・注意点及びその方法について習得する		
成績評価方法	平常点（小テスト，レポートやノートの提出とその評価，出席及び授業態度），中間試験並びに期末試験を合算して行う。		
定期試験受験資格	開講された全時限に出席し，レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は，補講も完了している者。		
成績評価基準	<p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p style="padding-left: 40px;">中間試験の点数 30％ 期末試験の点数 40％ 平常点 30％</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p style="padding-left: 40px;">60～69点 = 可、70～79点 = 良、80～89点 = 優、90点以上 = 秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点 = 可とする。</p>		
成績評価できない場合の基準	全講義を終了時点の出席率が50％を満たしていない場合、又は、成績評価が60点未満の場合。		